

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果のお知らせ

福津市立福間中学校

## ■ はじめに

令和5年4月18日、3年生を対象に全国学力・学習状況調査が以下のように実施されました。

学力調査	国語 数学 英語
学習状況調査	学習・生活状況に関する質問紙(アンケート)

この調査は、子供たちの学力の傾向や学習状況の実態を的確に把握し、今後の学習や生活習慣の改善に資するために、文部科学省が毎年行っているものです。全国学力調査の結果は、学力のすべてではなく、特定の一部を表したものであるとされています。

先日、その調査結果が届きましたので、福津市教育委員会の公表方針に沿って、本校3年生の学力の傾向(福間中・県・全国の平均正答率の比較及び今後の授業改善の方策)、学習・生活状況(福間中・県・全国の回答結果の比較及び考察)についてお知らせいたします。

## 1 学力の傾向

### (1) 福間中・県・全国の平均正答率の比較

学力調査における福間中と全国・県の平均正答率(%)を各教科に分けて比較すると、次のようになっています。

国語、数学については、全国・県平均と比較して上回っています。

英語については、全国と比較して下回っていますが、県より上回っています。

### (2) 本校の課題と今後の授業改善

各教科の調査結果を詳しく分析することによって明らかになった本校の課題と、その課題の解決に向けた授業改善の方策を次のように考えます。

#### ①国語 (R5年度の方策)

国語においては、次のような課題がみられました。

- 意見と根拠などの情報と情報との関係を理解すること。
- 漢字や語彙、行書の特徴などを理解すること。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・根拠を明確にして理由も含めて自分の意見を書くような活動を積極的に取り入れています。
- ・日頃の授業や定期テストで作文を取り入れる。自分の考えを整理して各中で、新たに身に着けた言葉や漢字を積極的に使うよう指導します。

#### ②数学 (R5年度の方策)

数学においては、次のような課題がみられました。

- 数学用語(自然数、比例定数等)の意味を理解すること。
- 平面図形において、筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを証明すること。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・新しい単元の導入の際、既習事項を振り返り、基礎的な知識・技能の定着度合いを図る診断的評価を行い、授業改善に努めます。
- ・典型的な証明問題だけでなく、自ら筋道を立てて数学的に表現できるように、発展的に説明する機会を増やします。
- ・基礎から入試問題まで幅広く確率の問題を解く機会を増やします。
- ・県教委が示す「フォローアップシート」を活用した授業づくりに取り組みます。

### ③英語（R5年度の方策）

英語において、次のような課題が見られました。

- 指定されたトピックについてこれまでの既習表現等を用いてまとまりある文章を書くこと。
- 基本的な時制や英文の語順の知識の定着。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・単元のゴールに書く活動を位置づけ、まとまりある英文を書く機会を増やします。
- ・トピックを提示し、時間を区切ってまとまりある英文を書く活動を設定します。
- ・場面を提示し、適切な時制で表現する練習をします。
- ・英語の基本的な語順の獲得に向けた、繰り返しのドリル練習をします。

### ④英語 話すこと（R5年度の方策）

英語（話すこと）において、次のような課題が見られました。

- 相手に文脈に合った質問を即興的に正しく尋ねること。
- 正しい情報を不足なく伝えることができる。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・ALTと1対1で話す場をなるべく設定し、ALTからの質問に答えるだけでなく、自分から質問をするような活動を位置づけます。
- ・発話を指導する中で、正確さについてもフィードバックを行います。

## 2 学習・生活状況

学習・生活状況調査のうち、本年度も福津市が特に重視している質問項目の結果と改善策は次のとおりです。

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」）をした生徒の割合は、全国と比較してやや下回っています。

<改善策>

- ・特別活動や総合的な学習の時間を核としたキャリア教育を充実させるとともに、日常の学習が将来にどのようなつながりや影響があるのかを考える機会を設けます。また、コミュニティ・スクールの機能を生かして、地域の魅力ある大人との出会いの機会を設け、社会の一員としての自覚を高める授業づくりに取り組んでいきます。

- ② 「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較して上回っています。

<改善策>

- ・生徒会や地域活動推進委員会の活動を中心に、地域貢献（ボランティア）活動への参加を促します。
- ・教師が授業や学校行事において、生徒の頑張りや努力を認め、積極的に評価する場面を増やすとともに、「セルフ25」を核として、生徒同士で教え合ったり、認め合ったりする活動を促進していきます。

- ③ 「学校の授業時間以外に月～金どれくらい勉強しますか(塾など含む)」という質問に対して、1時間以上と回答した生徒の割合は、全国と比較して下回っています。

<改善策>

- ・家庭学習の必然性が伴う授業改善と、家庭学習の課題改善について検討します。

④「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較して下回っています。

<改善策>

- ・テスト前の学習計画だけでなく、継続的な家庭学習の計画の立案を指導します。
- ・一斉指導に限らず、個に応じた家庭学習の在り方について個別指導を図ります。

⑤「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較して下回っています。

<改善策>

- ・生徒会や地域活動推進委員会の地域貢献活動を宣伝し、地域行事への参加を促します。
- ・機会をとらえて、地域行事の役割や意義について指導します。

⑥「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

<改善策>

- ・社会科（公民）や総合的な学習の時間を中心に、我が国や地域の課題解決に立ち向かう大人の姿に出会わせるとともに、生徒自身に社会や地域の課題に出合わせ、自分たちにもできる協力などについて考える場を設定します。
- ・3学年が取り組んだ「未来会議」についての成果を他学年に発信する場を設定します。